

児童館における健全育成活動等 開発事業報告書(令和6年度)

令和7年3月

盛岡市

目次

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

- (1) 児童館・児童センター設置状況
- (2) 児童館・児童センター利用状況
- (3) 児童館・児童センターの課題と事業実施の目的

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

- (1) 企画・推進委員会の設置
- (2) 企画・推進員会の開催状況
- (3) 盛岡市発達支援を必要とする児童の受入支援事業
- (4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画
(パーソナル・プラン)作成支援
- (5) 発達相談支援員

3 結果と考察

- (1) アンケート調査の手続き
- (2) 事業の目標値
- (3) アンケート調査結果(モデル施設)
- (4) アンケート調査結果(玉山地域)
- (5) アンケート調査結果(旧盛岡地域)
- (6) アンケート調査結果(自由記述)
- (7) アンケート調査結果の考察
- (8) 事業の総括

4 成果の公表実績・計画

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

(1) 児童館・児童センター設置状況

- ・ 設置状況

市内の小学校区(全41校)に1つ児童館・児童センターを設置する方針で整備を進めており、令和6年4月現在、42館1分室が整備されている。

- ・ 管理運営

地域名	施設数	指定管理者
盛岡地域・都南地域	37館1分室	社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団
玉山地域	5館	社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会

※令和5年度 盛岡地域・都南地域:36館1分室、玉山地域 5館

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

(2) 児童館・児童センター利用状況

令和6年5月1日現在

	施設数	登録児童数	障がい (疑い含む) 児童数	登録児童数に対する 障がい児の割合
盛岡地域・都南地域	37館1分室	4,016人	322人	8.0%
玉山地域	5館	260人	18人	6.9%
盛岡市全域	42館1分室	4,276人	340人	7.9%
昨年度盛岡市全域	41館1分室	4,134人	284人	6.9%

(出典: 令和6年5月実施の児童数調査結果から抜粋)

- ・ 昨年度と比較すると、障がい(疑いを含む)児童数は56人の増、登録児童数に対する障がい児の割合として も増加(+1.0%)している。

1 盛岡市の児童館・児童センターの現状

(3) 児童館・児童センターの課題と事業実施の目的

【課題】

発達支援を必要とする児童の利用が年々増えており、施設職員の加配や支援を求める声があがっていたことから、職員の対応力向上、不安軽減のため、昨年度、児童館における健全育成活動等開発事業において、専門的知識を有する職員による巡回訪問を試験的に実施したが、未だ児童への接し方や支援方法に悩む児童厚生員が少なくない。

また、昨年度の事業実施後のアンケート調査において、より具体的な手立てや実践事例を望む声があった。

【目的】

発達支援を必要とする児童の受入を推進するため、職員のスキルアップ、不安軽減につながる事業を試験的に実施する。

2 児童館における健全育成活動等 開発事業取組

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(1) 企画・推進委員会の設置

【委員構成】 8名(有識者、児童館・児童センター指定管理者、市関係課)

所 属	職 名	氏 名
岩手大学大学院教育学研究科	准教授	委員長 佐々木 全
Office瑠璃	代表	及川 藤子
社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団事務局総務課	企画総務係長	本宮 利彦
社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会玉山支所	所長	玉山 正彦
盛岡市教育委員会学校教育課	指導主事	熊谷 優子
盛岡市保健福祉部障がい福祉課	副主幹兼相談認定係長	松井 貴
盛岡市子ども未来部こども家庭センター	所長	佐々木 一憲
盛岡市子ども未来部子ども青少年課	課長	杉田 博信

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(2) 企画・推進委員会の開催状況

	開催日	内容
第1回	令和6年9月26日(木)	・児童館の現状報告 ・事業説明、実施内容の検討
第2回	令和6年11月25日(月)	・施設職員アンケート実施検討 ・パーソナル・プラン作成研修報告
第3回	令和7年2月5日(水)	・施設職員アンケート結果報告① ・発達相談支援員活動報告
第4回	令和7年3月27日(木)	・施設職員アンケート結果報告② ・事業の効果検証、事業実施報告

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市支援を必要とする受入支援事業

【児童健全育成活動等開発事業のテーマ】

テーマ(一般)	福祉的な課題への対応
事業名	盛岡市発達支援を必要とする児童の受入支援事業
事業概要	支援が必要な児童の受入推進を図るため、受け入れに必要な専門的知識等を有する発達相談支援員(2名)を配置し、児童館・児童センターを巡回して、現場で対応にあたる児童厚生員に対し個別相談に応じながら支援にあたってもらう。 また、児童厚生員のスキルアップを目指し、研修会等を通し、実践を振り返って目標・手立てを考える後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援に取り組む。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(3) 盛岡市支援を必要とする受入支援事業

盛岡市発達支援を必要とする児童の受入支援事業の2つの柱

後方視的対話(RD)による
個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援
(今年度から実施する初の取組)

発達相談支援員による
巡回支援・研修
(昨年度も実施している継続の取組)

施設職員のスキルアップ・不安軽減＝発達支援を必要とする児童の受入推進

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

① 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)とは

- ・後方視的対話(RD: Retrospective/Reflective Dialogue)とは、実践を想起し明示化することを目指した対話のこと。

(出典 佐々木全・東信之・坪谷有也・田村典子・福田博美・佐藤信・清水茂幸(2017)「個別の指導計画の作成に資する「後方視的対話」の開発とその活用:教育実践研究論文集,4,108-113.)

- ・話し手と聞き手に分かれ、話し手である実践者に対して、聞き手が実践内容について発問し、その応答をワークシートに記入する。対話をすることで、対象児童の様子を振り返りつつ、どのように関わればよいかを整理することができる。

また、対話しながらワークシートに記入することで個別支援計画(パーソナル・プラン)が出来上がる。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

② 児童館・児童センターでの活用

日頃、児童厚生員たちは児童との関わりや児童の様子について職員同士で話したり、日常的に支援の手立てを実践している。しかし、昨年度の事業後のアンケートでは、具体的な手立てや実践例の教えを望む声が多かった。

後方視的対話により、児童厚生員が普段実施している手立ての何が効果的で、次はどのような支援を行えばよいのか、目標・手立て・評価の内容にかかる思考や言語化をすることで、経験知を意識的に手立てとして用いることができ、また、後方視的対話で使用されたワークシートが児童の個別支援計画(パーソナル・プラン)になるため、個人で終結しがちな経験知を施設に蓄積することができる、と考え、本事業で取り組むこととした。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

③ 実施方法・内容

方法、内容	
対象	・市内児童館・児童センターの中からモデル施設として3館選定。 (日戸児童館、上米内児童センター、飯岡児童センター)
実施場所	各モデル施設
実施期間	令和6年11月から2月までの4か月間の間で1か月に1回程度、各館全4回実施
講師	・岩手大学大学院教育学研究科 佐々木全准教授
内容	・各モデル施設に訪問し、市が個別支援計画(パーソナル・プラン)作成研修を主催。 ・研修の進行等は講師に依頼。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

・研修内容

1回目:後方視的対話による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成の概要説明

→作成のデモンストレーション →対象児を決めてワークシートを用いて演習

2回目～4回目:前回作成した個別支援計画(パーソナル・プラン)による支援の振り返りと、

と個別支援計画(パーソナル・プラン)のブラッシュアップを行う。

また、施設の要望があれば、別の対象児についての個別支援計画(パーソナル・プラン)作成を行う。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

・研修の流れ

話し手である施設職員に対して、聞き手(講師)が実践内容について発問し、その応答を講師がワークシートに記入する。(実際は、見やすいよう黒板やホワイトボードに記入した。)

- ①実践によって得られた児童生徒の姿はいかなるものだったか。(評価)
- ②その姿の実現場面で講じられていた手立ての内容は何か。(支援方法)
- ③この手立てによって、児童生徒のいかなる姿を目指したのか。(目標)
- ④次時の目標は何か。この時①～③をもとにして現実的で妥当な目標の内容と標記によって設定する。
- ⑤目標の実現に資する手立ては何か。この時、①～③をもとにして必要な加除修正を施しつつ考案する。

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

・研修の流れ(続き)

先述の①～⑤をワークシートに記入すると、個別支援計画(パーソナル・プラン)が出来上がる。

これを基に次回の研修まで支援を実施し、次回の研修では作成した個別支援計画(パーソナル・プラン)に基づいた支援ができたかどうか、振り返り(①)から始める。

後方視的対話演習シート (A4～A3サイズでの使用を推奨)		
■語り手：	■指導場面：	■実施日時：
■聴き手：	■対象児：	■備考：
目標	手立て	評価
●【そもそも】	●【振り返ってみれば】	●【今まさに】
③	②	①
●【まずここから】	●【これを目指して】	
④	⑤	

The diagram illustrates a cyclical process. It starts with step ① in the 'Evaluation' column, moves to step ② in the 'Intervention' column via a 'Retroactive' (後方視的) arrow. From step ②, it goes to step ③ in the 'Goal' column. Then, it moves to step ④ in the 'Starting Point' column via a 'Prospective' (前方視的) arrow. Finally, it returns to step ③ from step ④, completing the cycle.

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

④ 個別支援計画(パーソナル・プラン)におけるワークシート記載例(架空事例)

目標	手立て	評価
③【そもそも】 ・みんなに声掛けをして、 <u>時間で動けばいい</u>	②【振り返ってみれば】 ・外遊びを見守った(構いすぎもNG) ・帰宅直前に17時のことを問います。 ・「17時におやつ」と声掛け <u>17時の音楽が合図(目安)</u>	①【今まさに】 ・17時片付け、おやつと決めていたが、「もっと遊びたいからそんなのはいい」と外遊びをした。 ・空腹時、遊び満足時はおやつを食べる。 ・ぷいっとして帰る。文句言わなくなった(反抗、多少の悪びれ) ・遊びは他児をリードして、よい姿。安全確保 ・時間通り動くこともある。 ・おやつは強制ではない
④【まずここから】 17時の合図に応じて 片付け <u>おやつ</u> <u>屋内に入ってほしい</u>	⑤【これを目指して】 前 { ①「17時になったらおやつ」と予告 ②他児にも①を確認 中 { ③予告10分前音楽が鳴る →「17時になりましたよ」 ← 安全の意図 ④③声掛けし合う 子ども同士 後 { ⑤「時間で入ってきたね」(承認) ⑥(反発され)見守る、帰り際(寒くなかった?風邪ひくよ)	次回までに OK行動 何回あったか NG行動 何回あったか を確認

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(4) 後方視的対話(RD)による個別支援計画(パーソナル・プラン)作成支援

⑤ 実施の様子



2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(5) 発達相談支援員

発達相談支援員について

配置人数	・盛岡地域・都南地域(37館1分室)・玉山地域(5館) 2名
雇用形態	・非常勤(指定管理者が雇用) ・パートタイム勤務 週30時間勤務(1日6時間×週5日(月曜日～金曜日))
業務内容	・児童館・児童センターの巡回支援 ・企画・推進委員会への出席及び活動内容等の報告 ・児童厚生員等の施設職員等を対象とした研修会の開催 ・パーソナル・プラン作成研修への出席

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(5) 発達相談支援員

① 児童館・児童センターの巡回支援

ア 業務内容(1日の流れ)

10時00分～12時00分	前日の児童センター巡回訪問記録の作成
13時00分～14時00分	当日の巡回訪問施設の児童の確認
14時00分～14時30分	移動
14時30分～16時30分	児童センター巡回訪問
16時30分～17時00分	移動・訪問まとめ等

イ 児童センター巡回支援の流れ

- ・所長、児童厚生員と児童の様子等について情報交換と相談等
- ・児童の様子を観察(対象児童の観察、遊びを通した子どもたちとの交流)
- ・観察結果の共有等(疑問の確かめ、子どもの一面についての情報交換、共有等)

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(5) 発達相談支援員

② 巡回支援(相談実績)

令和6年12月末時点

	施設数	相談回数	相談児童数	相談内容
盛岡地域・ 都南地域・ 玉山地域①	21施設	・訪問 43件 ・電話 2件	201人 (1施設平均9.5人)	・発達障がい関係 174人 (延べ 348人) ・問題行動等関係 27人 (延べ 54人)
盛岡地域・ 都南地域・ 玉山地域②	22施設	・訪問 46件 ・電話 4件 ・来所 2回	311人 (1施設平均14.1人)	・発達障がい関係 242人 (延べ 436人) ・問題行動等関係 69人 (延べ 104人)

2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(5) 発達相談支援員

③ 施設職員等を対象とした研修会の開催

全体研修会

- ・開催回数 1回
- ・開催日 令和7年1月29日
- ・場所 盛岡市総合福祉センター4階 講堂
- ・開催内容 保護者対応、遊びの充実、
ルールの確立等をテーマとした講義
(10グループに分かれたグループ毎の
協議を含む)



2 児童館における健全育成活動等開発事業取組

(5) 発達相談支援員

④ パーソナル・プラン作成研修への出席

- ・パーソナル・プラン作成研修の開催日に合わせ、発達相談支援員が巡回支援担当施設の研修に参加

【目的】

- ・今年度は、市内児童館・児童センターからパーソナル・プラン作成研修を実施する施設をモデル施設として3館のみとしたことから、発達相談支援員もパーソナル・プラン作成研修に参加することで、パーソナル・プラン作成方法を習得していただき、他の施設への普及につなげられるようにすること。

3 結果と考察

3 結果と考察

(1) アンケート調査の手続き

事業の評価をするため、成果や改善点を明らかにすることを目的として事業の実施前後で以下の調査を実施した。

アンケート調査の概要

対象者	日常業務において児童と接する施設職員(207名)
実施期間	事前:令和6年11月6日(水)～令和6年11月22日(金) 事後:令和7年2月12日(水)～令和7年2月28日(金)
調査内容	アンケートの回答は、「5 よくあてはまる」「4 ややあてはまる」「3 どちらともいえない」「2 あまりあてはまらない」「1 全くあてはまらない」の5段階評価とした。 アンケートの最後には、自由記述欄を設けた。

3 結果と考察

(1) アンケート調査の手続き

また、アンケートは、次の3群に分けて、事前・事後それぞれ3種類のアンケート用紙を用意した。

①旧盛岡地域(36施設)

昨年度から継続して発達相談員による巡回支援のみを実施

②玉山地域(4施設)

今年度途中から巡回支援のみ実施

③モデル施設(3施設)

巡回支援だけでなくパーソナル・プラン作成研修を実施

発達支援を必要とする児童への受入に関するアンケート調査②

説明事項

1 調査の目的 発達相談支援員※（以下、支援員という。）の巡回訪問事業の効果を評価するために実施します。

2 実施対象 日常業務において児童と接する職員を対象としています。（令和6年11月の発達支援を必要とする児童の受入に関するアンケート調査①に回答された方）

3 回答期限 令和7年2月28日（金）

4 その他 ・本調査は無記名調査のため、個人や所属が特定されることはありません。
・御回答いただいた内容は、本調査の目的以外で使用することはありません。

※1 「発達支援を必要とする児童」とは、発達障がいやその疑い等があり、支援を必要とする児童のことを指します。

※2 「発達相談支援員」とは、発達障がい専門員と発達障がい専門員のことを指します。

問1 職名について、あてはまるもの1つに○をつけてください。「4 その他」を選択した場合は、職名を記入してください。

1 所長・課長・副所長

2 児童厚生員

3 児童指導員

4 その他（職種： ）

問2 項目ごとに自分の状況にあてはまるもの1つに○をつけてください。

項目	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
① 発達障がい児（疑いを含む）への対応について不安はない。	1	2	3	4	5
② 発達障がい児（疑いを含む）への適切な対応ができています。	1	2	3	4	5
③ 発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動への対応ができています。	1	2	3	4	5
④ 発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動を未然に防ぐことができます。	1	2	3	4	5
⑤ 発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の目標を説明できています。	1	2	3	4	5
⑥ 発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の手立てを説明できています。	1	2	3	4	5

問3 発達障がい児（疑いを含む）への対応や、巡回支援に関してお考えのことがございましたらご自由にお書きください。

アンケートへの御協力ありがとうございました。

図：アンケート用紙例(事後・旧盛岡地域版)

3 結果と考察

(1) アンケート調査の手続き

① 日盛岡地域の質問項目

	設問内容
①	発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない。
②	発達障がい児(疑いを含む)への適切な対応ができている。
③	発達障がい児(疑いを含む)について、その不適応行動への対応ができている。
④	発達障がい児(疑いを含む)について、その不適応行動を未然に防ぐことができている。
⑤	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の目標を説明できている。
⑥	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の手立てを説明できている。
⑦	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の結果を説明できている。
⑧	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して必要な情報を職員同士で共有することができる。
⑨	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して必要な情報を外部機関の支援者で共有することができる。
⑩	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して得られた知識を実践に活かすことができる。
⑪	支援員による巡回支援の内容は役立った。
⑫	支援員による巡回支援の時間は必要十分だった。
⑬	支援員による研修の内容は役立った。
⑭	支援員による研修における時間は必要十分だった。

3 結果と考察

(1) アンケート調査の手続き

②玉山地域の質問項目

	設問内容
①	発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない。
②	発達障がい児(疑いを含む)への適切な対応ができている。
③	発達障がい児(疑いを含む)について、その不適応行動への対応ができている。
④	発達障がい児(疑いを含む)について、その不適応行動を未然に防ぐことができている。
⑤	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の目標を説明できている。
⑥	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の手立てを説明できている。
⑦	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の結果を説明できている。
⑧	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して必要な情報を職員同士で共有することができている。
⑨	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して必要な情報を外部機関の支援者で共有することができている。
⑩	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して得られた知識を実践に活かすことができている。
⑪	支援員による巡回支援の内容は役立った。(事後調査のみ)
⑫	支援員による巡回支援の時間は必要十分だった。(事後調査のみ)
⑬	支援員による研修の内容は役立った。(事後調査のみ)
⑭	支援員による研修における時間は必要十分だった。(事後調査のみ)

3 結果と考察

(1) アンケート調査の手続き

③モデル施設の質問項目

	設問内容
①	発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない。
②	発達障がい児(疑いを含む)への適切な対応ができている。
③	発達障がい児(疑いを含む)について、その不適応行動への対応ができている。
④	発達障がい児(疑いを含む)について、その不適応行動を未然に防ぐことができている。
⑤	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の目標を説明できている。
⑥	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の手立てを説明できている。
⑦	発達障がい児(疑いを含む)に対する支援の結果を説明できている。
⑧	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して必要な情報を職員同士で共有することができている。
⑨	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して必要な情報を外部機関の支援者で共有することができている。
⑩	発達障がい児(疑いを含む)について、その支援に関して得られた知識を実践に活かすことができている。
⑪	個別支援計画作成研修の内容は役立った。(事後調査のみ)
⑫	個別支援計画作成研修の時間は必要十分だった。(事後調査のみ)

3 結果と考察

(2) 事業の目標値

【目標値】^{注1)}

「発達障がい児(疑いを含む)への対応についての不安はない」の平均値が事前調査よりも事後調査で上回ること＝不安が軽減されることを目標とした。

また、事前調査で「発達障がい児(疑いを含む)への対応についての不安はない」を目的変数、他を説明変数としたCS分析において産出された、改善度指数の高かった項目の値が、事後調査で下回ることを目標とした。

注1)当初事業実施計画書において設定していた目標値について、企画・推進委員会で諮ったところ、「事後の調査のみのアンケート結果を目標値とすることは厳密に効果があったかどうかを測るには不適切であり、事前・事後の変化を比較してその変化を成果とするべき」「回答割合が90%などの根拠の無い設定は達成する見込みも無く、意味が無い」といった意見をいただいたことから、上記の目標値設定とした。

なお、当初事業実施計画書の目標値の実績は次のとおり。

(1)児童厚生員の不安軽減

目標値:アンケートで、発達支援を要する児童との接し方や支援について「不安が減った」と回答した割合 90%以上

実績値:発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない(「2 あまりあてはまらない」「1 全くあてはまらない」を除く)→ 49.3%

(2)具体的手立ての獲得

目標値:アンケートで、肯定的な回答の割合 90%以上

実績値:発達障がい児(疑いを含む)への適切な対応ができている(「2 あまりあてはまらない」「1 全くあてはまらない」を除く)→ 71.9%

3 結果と考察

(3) アンケート調査結果^{注2)} (モデル施設)

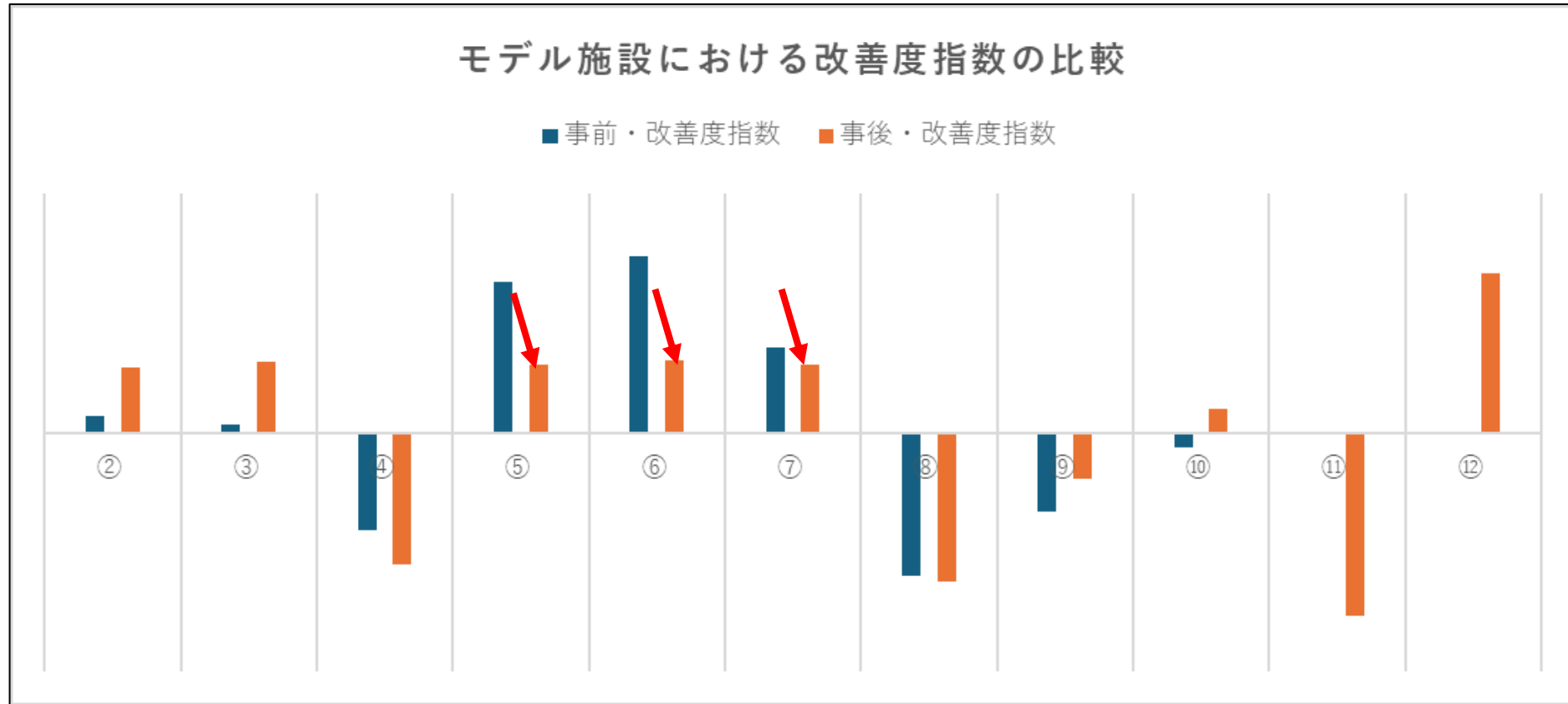
〈不安の軽減(①)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

設問内容	事前調査			事後調査		
<目的変数>発達障がい児（疑いを含む）への対応について不安はない。(事前 3.08；事後 3.23)	平均値	相関係数	改善度指数	平均値	相関係数	改善度指数
②発達障がい児（疑いを含む）への適切な対応ができている。	3.08	0.25	1.40	3.54	0.73	5.39
③発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動への対応ができている。	3.15	0.26	0.68	3.46	0.65	5.94
④発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動を未然に防ぐことができている。	3.08	-0.62	-8.15	3.62	-0.68	-11.10
⑤発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の目標を説明できている。	2.92	0.81	12.67	3.31	0.41	5.68
⑥発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の手立てを説明できている。	2.85	0.84	14.75	3.38	0.46	6.06
⑦発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の結果を説明できている。	3.08	0.55	7.06	3.31	0.41	5.68
⑧発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して必要な情報を職員同士で共有することができている。	4.15	0.18	-12.06	4.38	0.10	-12.46
⑨発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して必要な情報を外部機関の支援者で共有することができている。	3.85	0.30	-6.65	3.77	0.18	-3.86
⑩発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して得られた知識を実践に活かすことができている。	3.54	0.44	-1.29	3.67	0.58	2.01
⑪個別支援計画作成研修の内容は役立った。	個別支援計画研修未実施につき調査無し			3.92	-0.51	-15.40
⑫個別支援計画作成研修の時間は必要十分だった。				2.77	0.49	13.32

注2)アンケートの分析に際しては、CS分析(Customer Satisfaction;菅民郎 2013 Excelで学ぶ多変量解析入門.オーム社.)を実施した。これには、統計分析研究所株式会社アイスタットが提供する専用ソフトを用いた。

3 結果と考察

(3) アンケート調査結果(モデル施設)



3 結果と考察

(3) アンケート調査結果(モデル施設)

〈⑤支援の目的〉〈⑥支援の方法〉〈⑦支援の評価〉と他項目の相関分析

変数名	⑤	⑥	⑦
①	0.2348	0.3385	0.2348
②	0.4938	0.5905	0.4938
③	0.5264	0.4721	0.5264
④	-0.0630	-0.1982	-0.0630
⑤	1.0000	0.9431	1.0000
⑥	0.9431	1.0000	0.9431
⑦	1.0000	0.9431	1.0000
⑧	0.6646	0.5792	0.6646
⑨	0.7794	0.6062	0.7794

変数名	⑤	⑥	⑦
⑩	0.8060	0.7957	0.8060
⑪	-0.0875	-0.0943	-0.0875
⑫	0.1451	0.3230	0.1451

※色が濃いほど相関が強い。

※0.3以上を相関があるとする。

3 結果と考察

(3) アンケート調査結果(モデル施設)

CS分析の結果から

- (1) 目的変数「発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない。」の平均は微増した。→僅かだが**不安の軽減に寄与した**。注3
- (2) 事前調査において研修ニーズとされた⑤⑥⑦は**改善度指数が低下した**。
事後調査の相関分析によれば、⑤⑥⑦と相関があるのは②③⑧⑨⑩であった。②③はパーソナル・プラン作成研修を行ったことで、今までの対応について問題意識が高まった結果だと考えられる。本事業ではパーソナル・プラン作成の導入レベルまでの研修であったことから、継続により改善されることが見込まれる。⑧⑨⑩は目標・手立て・結果の言語化ができるようになった要因になっていると考えられる。
パーソナル・プラン作成研修による介入は⑤⑥⑦への直接的なアプローチであるとともに⑧⑨⑩への間接的なアプローチでもあった。
- (3) パーソナル・プラン作成研修に対する評価は⑪で示されており、平均3.92であった。
- (4) 新たな課題として⑫が挙げられた。改善度指数が高くなっており、これは、研修に対する期待の表れと捉えられる。

注3)アンケートのサンプル数が少なかったことから、有意差検定まではできていない。

3 結果と考察

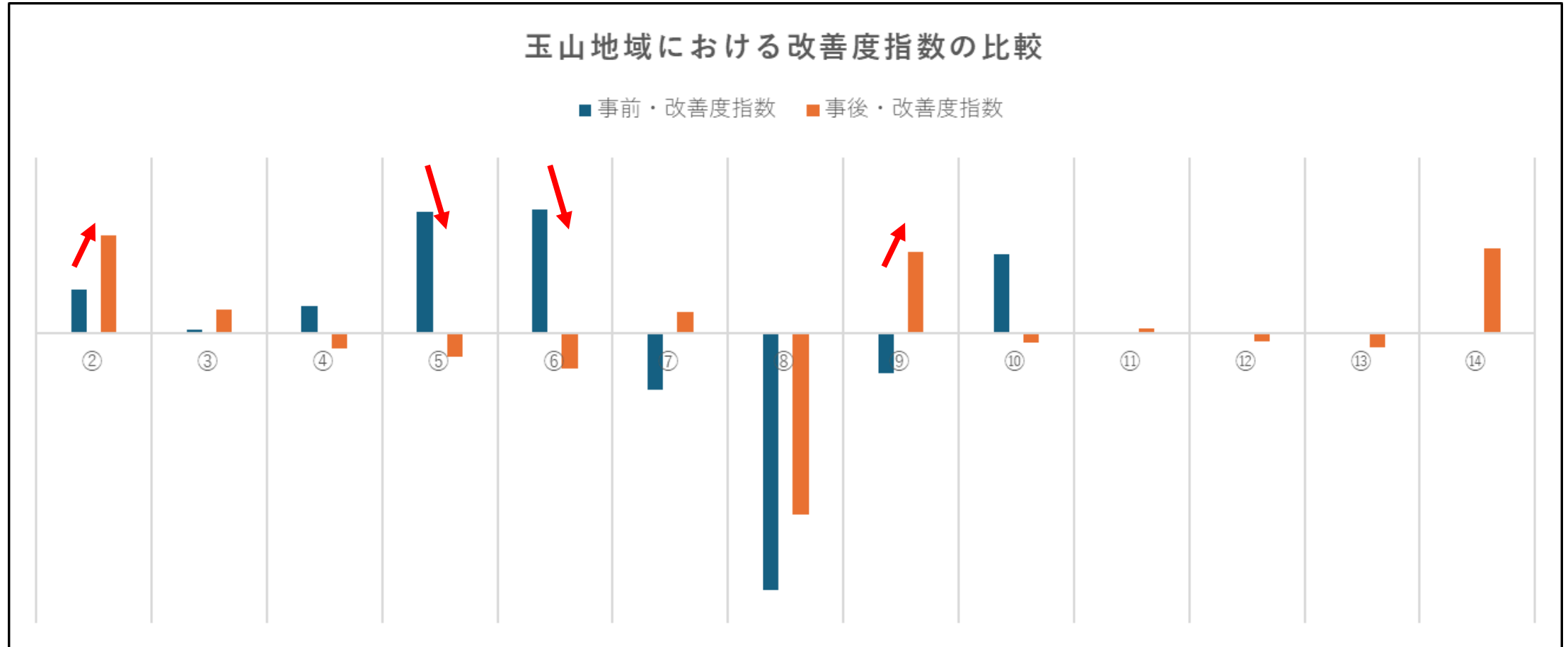
(4) アンケート調査結果(玉山地域)

〈不安の軽減(①)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

設問内容	事前調査			事後調査		
<目的変数>発達障がい児（疑いを含む）への対応について不安はない。(事前3.00；事後 3.29))	平均値	相関係数	改善度指数	平均値	相関係数	改善度指数
②発達障がい児（疑いを含む）への適切な対応ができています。	3.20	0.32	3.65	3.36	0.67	8.39
③発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動への対応ができています。	3.40	0.26	0.30	3.50	0.54	1.95
④発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動を未然に防ぐことができています。	3.30	0.33	2.32	3.36	0.28	-1.41
⑤発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の目標を説明できています。	3.00	0.58	10.43	3.21	0.15	-2.08
⑥発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の手立てを説明できています。	2.90	0.43	10.60	3.14	0.05	-3.12
⑦発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の結果を説明できています。	3.00	-0.33	-4.92	3.14	0.29	1.81
⑧発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して必要な情報を職員同士で共有することができています。	4.70	-0.20	-22.16	4.36	0.38	-15.62
⑨発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して必要な情報を外部機関の支援者で共有することができています。	3.20	-0.11	-3.48	3.50	0.76	6.99
⑩発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して得られた知識を実践に活かすことができています。	3.10	0.43	6.78	3.46	0.38	-0.87
⑪支援員による巡回支援の内容は役立った。	巡回支援未実施につき調査無し			3.77	0.66	0.39
⑫支援員による巡回支援の時間は必要十分だった。				3.69	0.55	-0.80
⑬支援員による研修の内容は役立った。				3.60	0.46	-1.29
⑭支援員による研修における時間は必要十分だった。				3.45	0.73	7.22

3 結果と考察

(4) アンケート調査結果(玉山地域)



3 結果と考察

(4) アンケート調査結果(玉山地域)

〈⑤支援の目的〉〈⑥支援の方法〉と他項目の相関分析

変数名	⑤	⑥
①	0.13	0.02
②	0.03	0.07
③	0.17	0.23
④	0.69	0.67
⑤	1.00	0.95
⑥	0.95	1.00
⑦	0.69	0.78
⑧	0.35	0.23
⑨	0.04	-0.04

変数名	⑤	⑥
⑩	0.24	0.28
⑪	0.14	0.07
⑫	0.02	-0.04
⑬	-0.11	0.04
⑭	-0.06	-0.15

3 結果と考察

(4) アンケート調査結果(玉山地域)

CS分析の結果から

- (1) 目的変数「発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない。」の平均は微増した。→僅かだが**不安の軽減に寄与した**。^{注3}
- (2) 事前調査において研修ニーズとされた⑤⑥は**改善度指数が低下した**。
- (3) それぞれの平均値は事前調査よりも微増しているものの、新たな課題として、②⑨⑭が挙げられた。
- (4) (2)に資する要因の特定が求められる。事後調査の相関分析によれば、⑤⑥と相関があるのは④⑤⑥⑦⑧であった。巡回支援や全体研修の介入⑪～⑭の効果ではなく自力解決かと考えられる。あるいは、巡回支援や全体研修の介入が、直接的ではなく間接的な別の効果をもたらしたとも考えられる。
- (5) 玉山地域のデータは、旧盛岡地域と比べ、不安が少なく、年度の変化も顕著である。独自の要因があるものと考えられ、今後解明する必要がある。

3 結果と考察

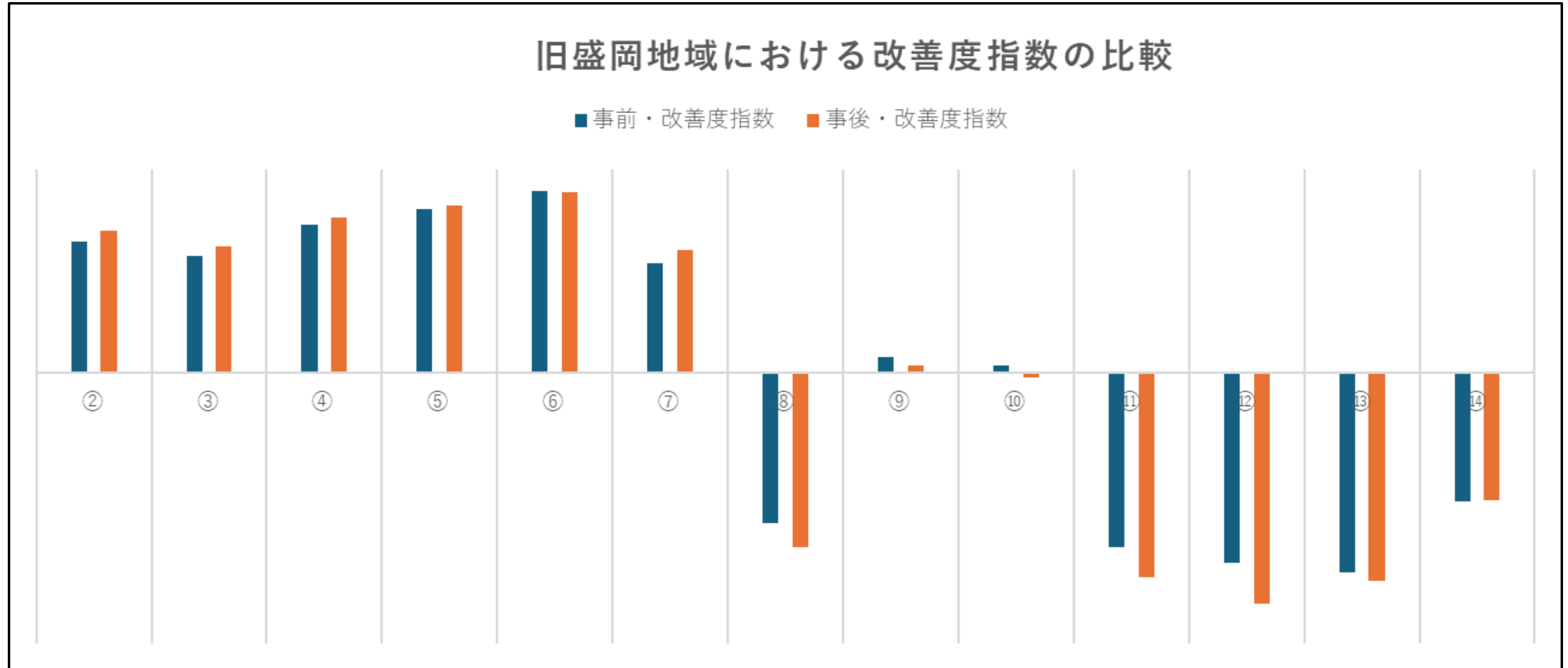
(5) アンケート調査結果(旧盛岡地域)

〈不安の軽減(①)を目的変数とした場合における各設問内容の平均値、相関係数、改善度指数〉

設問内容	事前調査			事後調査		
	平均値	相関係数	改善度指数	平均値	相関係数	改善度指数
<目的変数>発達障がい児（疑いを含む）への対応について不安はない。(事前 2.27；事後 2.60)						
②発達障がい児（疑いを含む）への適切な対応ができている。	2.68	0.56	9.62	2.68	0.56	10.48
③発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動への対応ができている。	2.68	0.51	8.57	2.68	0.52	9.27
④発達障がい児（疑いを含む）について、その不適応行動を未然に防ぐことができている。	2.53	0.49	10.95	2.53	0.49	11.47
⑤発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の目標を説明できている。	2.32	0.45	12.06	2.32	0.45	12.30
⑥発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の手立てを説明できている。	2.32	0.47	13.39	2.34	0.47	13.33
⑦発達障がい児（疑いを含む）に対する支援の結果を説明できている。	2.35	0.37	8.08	2.37	0.40	9.05
⑧発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して必要な情報を職員同士で共有することができている。	3.52	0.20	-11.14	3.53	0.19	-12.85
⑨発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して必要な情報を外部機関の支援者で共有することができている。	2.65	0.26	1.15	2.66	0.26	0.51
⑩発達障がい児（疑いを含む）について、その支援に関して得られた知識を実践に活かすことができている。	2.85	0.31	0.50	2.88	0.30	-0.37
⑪支援員による巡回支援の内容は役立った。	3.62	0.18	-12.89	3.62	0.17	-15.08
⑫支援員による巡回支援の時間は必要十分だった。	3.56	0.15	-14.06	3.56	0.13	-17.03
⑬支援員による研修の内容は役立った。	3.28	0.01	-14.72	3.42	0.12	-15.37
⑭支援員による研修における時間は必要十分だった。	3.00	0.02	-9.54	3.14	0.14	-9.38

3 結果と考察

(5) アンケート調査結果(旧盛岡地域)



3 結果と考察

(5) アンケート調査結果(旧盛岡地域)

〈⑤支援の目的〉〈⑥支援の方法〉〈⑦支援の評価〉と他項目の相関分析

変数名	⑤	⑥	⑦
①	0.5020	0.4279	0.4662
②	0.6565	0.6507	0.6079
③	0.5983	0.6012	0.6080
④	0.5988	0.6019	0.5839
⑤	1.0000	0.8691	0.7706
⑥	0.8691	1.0000	0.8036
⑦	0.7706	0.8036	1.0000
⑧	0.3673	0.3234	0.3768

変数名	⑤	⑥	⑦
⑨	0.4932	0.4697	0.5243
⑩	0.5372	0.5849	0.6048
⑪	0.2352	0.2959	0.3049
⑫	0.1616	0.2364	0.2040
⑬	0.3137	0.3765	0.3911
⑭	0.3128	0.3497	0.3868

3 結果と考察

(5) アンケート調査結果(旧盛岡地域)

CS分析の結果から

- (1) 目的変数「発達障がい児(疑いを含む)への対応について不安はない。」の平均は事前、事後ともに低く、変化も少なかった。
- (2) 事前調査において研修ニーズとされた②③④⑤⑥⑦⑩は、⑩のみ改善度指数が微減したものの変化はない。
- (3) 上記に対する巡回支援・全体研修の介入の効果は認めがたかった。
- (4) 介入の効果が見えなかった要因として、質の不足や量の不足が考えられる。しかし、そもそも旧盛岡地域36施設における研修ニーズと介入の効果は、同様なのか、この施設の状況について精査する必要がある。→アンケートの回答平均値の低い施設を抽出して支援ニーズの高い施設を明らかにし、支援の優先度を決め、巡回頻度等を調整することで、必要な質または量の介入を検討する。
なお、事後調査の相関分析から、②③④⑤⑥⑦⑩は相互に相関係数が高い。⑤⑥⑦(目的、方法、評価の言語化)を介入の糸口とするとよいと考えられる。

3 結果と考察

(6) アンケート調査結果(自由記述)

【自由記述の分析】

得られた234の記述データを切片化、分類しコーディングした。結果、6カテゴリーと、15概念が得られた。

自由記述における<カテゴリー>	認知にかかる【概念ラベル】	記述数 (事前)	記述数 (事後)
<個別支援計画(パーソナル・プラン)作成 支援研修事業に対する評価>	【後方視的対話(RD)の成果及び賛同】	0	6
	【後方視的対話(RD)の課題及び要望】	0	4
<役割の再定義>	【使命感の表明】	0	2
<職員に対する支援ニーズ>	【発達障害児対応における不安】	11	5
	【対応力向上の求め】	17	11

3 結果と考察

(6) アンケート調査結果(自由記述)

自由記述における<カテゴリー>	認知にかかる【概念ラベル】	記述数 (事前)	記述数 (事後)
<巡回相談事業に対する評価>	【巡回相談の成果及び賛同】	8	29
	【巡回相談の課題及び要望】	8	30
<組織機能強化ニーズ>	【学校との連携の必要】	10	3
	【家庭との連携の必要】	7	4
	【外部機関の紹介機能の必要】	3	1
	【組織内での連携の必要】	4	1
	【連携におけるハブの役割の必要】	2	1
	【施設運営における基盤整備の必要】	22	18
<本事業推進上の不備の指摘>	【調査趣旨の不徹底】	5	7
	【事業趣旨の不徹底】	2	13

3 結果と考察

(6) アンケート調査結果(自由記述)

自由記述の考察

(1) <職員に対する支援ニーズ>は、【発達障害児対応における不安】を動機として【**対応力向上の求め**】があった。これらは、<役割の再定義>として児童センターのあるべき姿を再考する動きという側面を有する。

これに応えるために、巡回相談事業を進めているが、<巡回相談事業に対する評価>には、【**巡回相談の成果及び賛同**】と【**巡回相談の課題及び要望**】があった。本事業における本質部分に対する評価であるが、相反する内容や充実の求めなどが混在している。注意深く、前者と後者の要因を検討する必要がある。また、巡回相談担当の支援員の役割や機能に関する有益な改善提案も含まれることから、今後内容を精査したい。

また、<パーソナル・プラン作成支援研修事業に対する評価>については、**巡回相談や研修方法としての効果**の指摘がある一方で**展開方法に関する調整の課題**が察せられた。

3 結果と考察

(6) アンケート調査結果(自由記述)

自由記述の考察

(2) <組織機能強化ニーズ>として【学校との連携の必要】と【家庭との連携の必要】、【外部機関の紹介機能の必要】と【組織内での連携の必要】が挙げられた。これらの連携の実務を担う【連携におけるハブの役割の必要】が指摘された。

さらに、【施設運営における基盤整備の必要】も挙げられた。これは、人員配置など根本的な整備の必要を挙げたものである。この整備の代替として本事業があるため、施設職員にはその理解を乞うことが必要である。

以上については、総合的で有益な改善提案も含まれることから内容を今後精査したい。

3 結果と考察

(6) アンケート調査結果(自由記述)

自由記述の考察

(3) <本事業推進上の不備の指摘>があり、【事業趣旨の不徹底】と【調査趣旨の不徹底】があった。これらには、単なる説明不足や不親切な表記の指摘もある一方で、【施設運営における基盤整備の必要】の動機にもなるであろう、本事業趣旨に対する反論も内包しており、各趣旨の理解を乞うことが必要であると考えられる。

また、発達障がい児(疑い含む)に限らない、児童全体を対象とした巡回支援を望む意見といった総合的で有益な改善提案や、アンケート調査の結果の情報開示の要請も含まれていた。

3 結果と考察

(7) アンケート調査結果の考察

- ・ 3つの群の結果を比較すると、少しの差ではあるが、後方視的対話によるパーソナル・プラン作成支援研修による施設への介入により、⑤⑥⑦(支援の目的・方法・評価の言語化ができる)の改善が見られたこと、不安の軽減に寄与していたことから、**後方視的対話によるパーソナル・プラン作成支援研修は効果があったといえる。**
- ・ 巡回支援・全体研修の介入による顕在的な効果は見られなかった。しかし、今回の事業では実施しなかった施設においても、後方視的対話によるパーソナル・プラン作成支援研修による介入をする、あるいは発達支援相談員の巡回相談の中で⑤⑥⑦を意識できるような取組をすることにより、改善される可能性が見えてきた。
- ・ その他、自由記述などのデータについては、来年度本市において独自予算で児童館・児童センターへの巡回支援を実施する予定であることから、今後の具体的な施策の参考にしたい。

3 結果と考察

(8) 事業の総括

本事業では、個別支援計画(パーソナル・プラン)作成によって不安の軽減となりうる目的・方法・評価の言語化 を高めることができるという見通しを得たこと、そのことは巡回相談にも取り入れ、巡回相談の質を高めることにもなりそうであるということ、不安の軽減が 数値的には微増にとどまったことについては、取り組みの回数等が不足していたことから、今後、目的・方法・評価に着目した介入を続けることによって、少しずつではあるが確実に不安の軽減あるいは対応力向上につながっていくものと考えられた。

4 成果の公表

4 成果の公表

- ・ 事業終了後、本市ホームページにおいて公表を行う。
- ・ 児童館・児童センターの指定管理者あて、成果物(事業報告書)の配布を行うとともに、アンケートの集計結果など詳細についても共有する。